

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2107 SNMP2307 SCMP2307 SBMP2107 PSMP2407
2. 授業担当教員	保原 伸弘		
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、調査方法に関する実習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義は国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会福祉調査の基礎」(旧カリキュラムでは「社会調査の基礎」)に対応するものである。本講義では、社会調査および社会福祉調査の基礎的事項を学習するが、社会福祉調査は社会福祉領域での社会調査のことであるため、本講義の内容の多くの部分は社会調査に関するものとなる。</p> <p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い、データを収集して、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとするものである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点、社会福祉領域における社会調査の活用法について把握することが可能となる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査・社会福祉調査の意義と目的について理解し、説明できるようになる。 2.社会調査と社会福祉の歴史的関係について理解し、説明できるようになる。 3.社会調査・社会福祉調査における倫理や個人情報保護の留意点について理解し、説明できるようになる。 4.量的調査と質的調査の方法および調査の結果について適切に理解し、説明できるようになる。 5.仮説設定→質問項目作成→現地調査→データ分析→分析結果の発表という調査の流れについて見通しを持つようになる。 6.ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解し、説明できるようになる。 7.社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験に必要な基礎知識について説明できるようになる(受験予定学生の場合)。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1.ほぼ毎回、次回勉強する内容についてまとめるなど事前学習が必要である。 2.グループごとに先行研究を集め、仮説と質問項目を作成する。 3.グループごとに面接調査を実施する。 4.グループごとに統計分析とレポートを作成し、発表・提出する。 5.小テストは、随時実施する(持ち込み禁止)。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 橋本有理子編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉 5 社会福祉調査の基礎』ミネルヴァ書房、2021。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査・社会福祉調査の意義と目的について理解し、説明できるようになったか。 2.社会調査と社会福祉の歴史的関係について理解し、説明できるようになったか。 3.社会調査・社会福祉調査における倫理や個人情報保護の留意点について理解し、説明できるようになったか。 4.量的調査と質的調査の方法および調査の結果について適切に理解し、説明できるようになったか。 5.仮説設定→質問項目作成→現地調査→データ分析→分析結果の発表という調査の流れについて見通しを持つようになったか。 6.ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解し、説明できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>小テスト 40%</p> <p>授業の態度や内容の把握など 30%</p> <p>レポート、調査方法に関する実習 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>公的サービスを提供する社会福祉施設などでは、長期的な計画に基づき収益の確保のために利用者に対するサービスの質と満足度を高める必要があります。そのためには、利用者などを対象にサービス・ニーズやサービス質・満足度などに関する意識調査が必要です。本講義を受講することにより、社会調査の方法を身につけ、社会福祉に関する様々な事象を科学的根拠に基づき評価することが可能であり、就職活動の際に高く評価されます。</p> <p><受講生に期待される学習態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で参加することを望みます。 2. 授業のための予習は必ず行い、ノートを整理してください。 3. 理解できないことや疑問点がある場合は、必ず質問してください。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではありません。 4. 人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴してください。 5. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないでください。 6. レポート等の提出期限を厳守してください。提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点の対象となります。 7. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等の学習活動を妨げる行為は厳禁とします。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義概要についてシラパスを中心に説明 1. 社会調査の定義、必要性	事前学習	社会調査法の学習ノートを準備し、講義に臨むこと(第1章)。
		事後学習	社会調査の定義と必要性について吟味する。
第2回	1. 社会調査と社会福祉の歴史関係 2. 社会調査における倫理と個人情報保護	事前学習	1と2をノートにまとめる(第2章・第4章)。
		事後学習	個人情報の保護が必要な理由について理解する。
第3回	1. データ収集の方法 2. データの信頼性と妥当性	事前学習	データの信頼性と妥当性を購読する(第8章)。
		事後学習	測定と
第4回	1. 仮説の作成の学習 2. 従属変数と独立変数を理解する 3. 質問項目と尺度の水準とは何かを理解する	事前学習	仮説の定義、仮説が必要な理由を調べる。尺度の水準について調べる(第8章2)。
		事後学習	仮説を作成しないとどのような問題が生じるかについて考える。仮説を精査する。
第5回	1. 質問文と選択肢の作り方を理解する 2. 質問文と選択肢の作成: グループ作業	事前学習	良い質問と悪い質問とは何か、網羅的・相互排他的選択肢とは何かをノート整理する(第8章1)。
		事後学習	仮説に関連する質問内容であるかを確認する。
第6回	1. 仮説の作成 2. 質問文と選択肢の作成 (グループ作業)	事前学習	調査対象者の選定方法の内容をまとめる(第7章2)
		事後学習	仮説の完成と質問文と選択肢の完成。
第7回	ミニテスト 調査対象者の選定: 標本調査とは何か、標本の選び方について学習	事前学習	標本調査とは何か。経済的負担が低く、回収率を高める方法とは何かを調べる。
		事後学習	母集団から標本の抽出方法について学習する。
第8回	質的研究の意義と目的	事前学習	質的研究の意義について学習する(第11章)。
		事後学習	質的調査の目的を復習する。
第9回	質的調査のデータ収集と分析	事前学習	関心がある対象に関する資料収集(新聞)。
		事後学習	質的データを分析する。
第10回	1. データ入力ミス発見とデータクリーニング 2. 調査対象者の特徴について発表	事前学習	欠損値の扱いについて学習する(第9章)
		事後学習	仮説に基づきクロス分析と有意差を検定し、表をまとめる(第10章2・3)。
第11回	クロス集計、カイ2乗検定、変数の加工、値の変換(情報室にて授業) TA レポート作成: グループ作業	事前学習	値の変換、カイ2乗検定を理解する(第10章)。
		事後学習	レポートを完成する。(グループ作業)
第12回	1. 仮説に基づきクロス分析結果の発表(情報室にて授業) TA レポート作成: グループ作業	事前学習	ダミー変数とは何か学習する
		事後学習	ダミー変数を用いて相関関係分析を行う。レポートを完成する
第13回	1. 相関関係分析 2. ダミー変数作成(情報室にて授業) TA レポート作成: グループ作業	事前学習	重回帰分析とは何か学習する。(配布資料)
		事後学習	発表レポートを作成する。(グループ作業)
第14回	1. 仮説に基づき相関関係分析結果の発表(情報室にて授業) TA レポート作成: グループ作業	事前学習	発表レジюмеを完成する、発表レジюмеをコピーする。(グループ作業)
		事後学習	グループごとに反省会を開く。グループの長所と短所について確認し、提出レジюмеを精査する。
第15回	1. ソーシャルワークにおけるニーズの発見と評価の意義の発見、グループ作業、ミニテスト	事前学習	ソーシャルワーカーがソーシャルワークにおけるニーズの発見と評価をどのようにしているかをノートにまとめる(第14章・15章)。
		事後学習	社会福祉のニーズの発見とニーズを解決するために、社会調査をどのように活用すればいいか考える。

期末試験